

私たちは普段、喋ることで、他の人とコミュニケーションをとっています。でも、喋り方や言葉の使い方によって、知らない間に人を傷つけてしまうことも少なくありません。

冗談で言った言葉でも、相手は真面目に受け取って傷ついてしまうかもしれません。

また、たったひとりでいじめに繋がってしまう可能性もあります。人によって言葉の受け止め方や考え方が違うからです。

SNSで起きる誹謗中傷も同じです。芸能人の方が誹謗中傷によって、自殺してしまったというニュースを見たことがある方も多いと思います。書き込んだ人は、軽い気持ちだったのかもしれませんが。「直接会わない・あったことがないから大丈夫だろう」「大したことにならないだろう」と思っている、書き込まれた人、その対象になっている人からすると、とても強い言葉だと感じるかもしれません。その結果、自ら死を選んでしまう方もいます。「SNS上だからいいと思った」という考えは、誹謗中傷の理由にはなりません。むしろ、相手の表情や顔を見て、気持ちを汲み取ることができないSNS上だからこそ、相手がどう思うかなど、気遣いが必要なのです。気遣いが必要なのはもちろん、現実の世界でも同じです。会話中にあいづちを打ったり、話の内容に合った表情をしたりと、会話では、多くの工夫ができると思います。

では、SNSで誹謗中傷をしている人は、どのような気持ちでしてしまうのでしょうか。二〇二〇年に鳥取県の人権文化センターが調査したグラフによると、一番多い理由は「対象が嫌いで我慢ならないから」が三三%。二番は「日常のストレスのはけ口」と「対象に嫉妬があるから」が同率。全く対象に関係がないのに、はけ口にされているなんて……。また、ランキングの下位ではありませんが、「面白いから」や「暇だから」「かまってほしいから」も入ってしまっています。これら三つの理由を挙げた人は、自分が誹謗中傷をしていることをわかっているのかもしれませんが。わかっているのにやっているなら、それなりに人権侵害として措置をとることもできると思います。でも、自分が誹謗中傷をしていることをわかっていない人も、中にはいます。それらを解決するには、「違法な情報発信に対する監視・取り締まりを強化する」ことが必要だということも、この調査で意見が挙がったようです。

また、最近では誹謗中傷を問題視することが増えてきて、二〇一九年にはドラマも放送され、「自分に何ができるのか」や「何をしてはいけないのか」を、視聴者の心に訴えました。たったひとりで、人の命を奪うほどの力があり、失ってから後悔しても遅いということを感じておかなければならないことも視聴者に強く訴えました。

でも、一回だけの呼びかけでは、伝わりにくいと思います。だから、呼びかけ続けたり個人が意識し続けることで、少しずつでも誹謗中傷が減るといいなと思います。

さて、みなさんは「世界幸福度ランキング」というものを知っていますか。これは、各国のおよそ千人に、生活に関する幸福度の評価を0～10までの十一段階で行ってもらい、平均をもとに決定されるランキングです。二〇二三年では日本は参加した一三七国中四七位でした。二〇二二年の五四位から七つ、順位を上げました。その理由として、他国と比べて「自分の国の方が良い」と感じる機会が多かったことも要因として考えられるようです。このランキングの下位の方には、戦争がよく起こる地域の国が多く入っています。上位の方には、欧州の国が多く、幸福度が高いようです。これはあくまでも千人の平均なので、尋ねる人を変えるとランキングも変わるとも思います。でも、日本での暮らしや、世界に目を向けるきっかけになる良いものだと思います。自分自身の幸福度や戦争の多い地域の方の幸福度が上がるといいなと思います。そのためにはどうすればいいのか、これは永遠の課題ですね。

すべての人がいつか幸せになれるように。